

5月

カトリック麹町教会

# MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

2026年度教会テーマ

ひとつになろう キリストのうちに ~ともに歩む教会へ~  
Journeying Together as One Community to Jesus



## 聖イグナチオ教会での使命、成長

### マリアに導かれて

ジェスリン・ブエンディア

私の名前はジェスリン・ブエンディアですが、皆はジェシーと呼びます。フィリピン出身で、フランスのカルメル会司祭である福者幼きイエスのマリーユ・ジュエヌ神父が設立した奉獻生活の会「ノートルダム・ド・ヴィー（いのちの聖母会）」会員です。

私はコロナのパンデミックのさなかに日本にきました。街は静まり返り、集まりは制限され、教会の生活は今と全く違いました。言葉、文化、生活リズム、すべてが私にとって新しいものでした。先が見えない日々の中、神の導きに耳を傾け信頼するマリアの静かなお手本に、私はしばしば力を得ました。

最初の2年間は、日本語の勉強に専念するとともに、英語圏の日曜学校のカテキスタとして、子どもたちが初聖体を受ける準備を手助けしました。子どもたちとその家族との出会いが、私の聖イグナチオ教会での活動の入口となりました。

日本語学習修了後、2023年4月から英語圏共同体の世話役を務め始めました。それ以来、ボニー・ジエームヌ神父様やシスター・フロール・フロレセと連携し、ジョン・デ・ブリット・イングリッシュセンターを構成するさまざまな奉仕活動やグループを支えてきました。振り返ると、この3年間の使徒的活動が私

を形作り、成長させてくれました。

最初は、すべてに圧倒されました。初めての小教区での任務であり、何をして、物事がどう機能し、どう奉仕するのが最善なのかを理解しよう

と、ただ見ているだけのことがよくありました。活気ある国際的な共同体を持つ聖イグナチオ教会で、さまざまな文化を持つ人々と出会い、喜びに満たされました。同時に、それは挑戦でもありました。人々が置かれた異なる状況を理解し、背景を尊重し、心を開いたきめ細やかなコミュニケーションを学ぶ必要がありました。

聖イグナチオ教会は何十年も、日本に住む外国人にとって「心のよりどころ」であり続けています。故郷から遠く離れていても、祈り、つながり、信仰を深められる場所です。使命が日々実践されるのを目の当たりにして、東京という地で当教会が果たす独自の役割をさらに理解できました。その使命の一端を担い奉仕できることを光榮に思います。また、私たちの共同体の活動を、静かに献身的に支援してくれる日本人の兄弟姉妹の皆さん、そして広い真心をもって、一致と奉仕の中で成長できるように助けてくれるイングリッシュセンターのリーダーと奉仕者の皆さんに感謝します。

マリアの月である5月を

教会報 MAGIS 5月号	
† 四旬節黙想会	P2~3
† 教会行事 ~聖週間~	P4
† 2026年度信徒評議員	P5
† (教会活動連絡会便り) ~教会活動連絡会議 2025年度の振り返り~	P6
† Family of St Ignatius ~スペイン語圏から~	P7
† ご帰天 ドメニコ・ヴィタリ神父様	P7

迎え、私たちの共同体と、教会のすべての奉仕活動を、その優しいみ手に委ねます。マリアはたとえ神の計画がまだはつきり見えていなくても、聞き、待ち、そして「はい」と答えることを教えてくださいます。土の下で静かに成長してからようやく咲く春の花のように、私たちの使命にも時間と忍耐、そして信頼が必要で、すぐに花開く奉仕活動があれば、ゆっくりと目に見えないところで育つ奉仕活動もあります。神の 때가来れば、時かれた種はすべて実を結びます。

私たちがともに歩み続け、誰もが神の愛に出会い、ひとつの家族として安らぎを感じられる共同体を築いていけるよう、マリアが私たちを導いてくださいますように。

共同祈願

復活節  
(5月10日まで)

主の復活を祝った私たちが、  
キリストに倣い、  
声を上げられない人々、  
見えないものとされている人々に、  
キリストとともに  
心を寄せていくことができますように。

5月の共同祈願

5月は聖母月です。  
「み言葉通り、この身になりますように」  
マリアさまの信仰を  
心に留めて過ごせますように。  
また、堅信の秘跡に与る方々に  
聖霊が力強く働きますように。

四旬節黙想会

主よ、お話しください。僕は聞いております  
〜イエスとともに歩む教会へ〜

高祖敏明主任司祭

3月20日(金・祝)主聖堂にて、高祖敏明主任司祭の  
指導による四旬節黙想会が行われました。10時より「イ  
エスの言葉を聞こう」を趣旨とした2つの講話と黙想(各  
15分)、12時よりミサが行われオンライン配信されました。

第一講話

I はじめに

①「実に、信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことよって始まる」  
(ローマ10:17)

「神のことにばに耳を傾けることは、どの教会的識別においても出発点であり基準です」(『シノドス流の教会



St Ignatius Catholic Church TOKYO

交わり、参加、宣教(シノドス最終文書)(カトリック中央協議会)83項)。

識別による司牧計画の作成に向けて、聖霊の導く「イエスとともに歩む教会」となる恵みを祈りましょう。

②「主よ、お話しください。僕は聞いております」  
(サムエル上3:1-11)

「神は、かつて預言者たちによつて、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子よつてわたしたちに語られました」  
(ヘブライ1:1-2)

神は、かつてはサムエルやモーセなど、選ばれた人に語っていました。終わりの時代にはイエス・キリストを通して

して語られました。新しい時代のメッセージは預言者ではなく、イエスの言葉を聞くことです。そして、聖書は神の声を聞く場です。

③2026年2月5日

教皇レオ十四世のメッセージ

「あらゆる回心の歩みは、みことばに触れていただき、従順な心でみことばを受け容れることよつて始まりま

す。〜ですから、四旬節の旅路は、主のみ声に耳を傾け、キリストに従う決意を新たに

する貴重な機会となります。〜今年はずまず第一に、  
へ耳を傾ける〜を通して  
みことばに場所を与えること  
の重要性に注目したいと思

います」  
聞き流すのではなく、言葉に場所を与え、そこで対話(黙想)をします。

II 「ともに歩む教会」を  
主唱したシノドスは、  
今後どうなるの？  
①東京大司教・枢機卿  
菊地功「まだまだ続くシノ  
ドスの歩み」(聖書と典礼)  
「2021年に教皇フラン  
シスコが招集された世界代  
表司教会議(シノドス)第16

回通常総会は、『ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教』をテーマに2024年10月末まで続きました。〜日本の司教団に『シノドスの取り組みは』第二バチカン公会議が目指した神の民のあり方を実現しようとしている。新しい教会を作るのではなく、聖霊に導かれた教会を実現したい。』と語られました。〜シノドス会期中には『皆さんではなく、聖霊が主役です』と繰り返されました」

②最終文書(日本語訳)『シノドス流の教会 交わり、参加、宣教』の内容構成

第一部 シノダリティの神髄  
—— 聖霊によつて回心に呼ばれた者たち

第二部 舟で一緒に—— かわりの回心

第三部 網を打ちなさい—— 道筋についての回心

第四部 豊漁—— きずなについて  
第五部 「わたしもあなたがたを遣わす」—— 宣教する弟子という民族の形成

第一部〜第四部まで、各部に回心という言葉がついてい

が、回心は「ちよつとした気つき」のことです。聖書の意味がわかった、これも回心です。

③東京大司教・枢機卿菊地功「日本の教会のみなさまへ」(2025年7月14日)

「私たちの教会がどこを向いて歩んでいるのか、どのような困難を抱えているのか、そういうことを共有しながら、ともに歩み、ともに祈り、ともに識別するすべを身につけることは重要であると思います」

麹町教会100周年プラン(パストラル・プラン)司牧計画)準備委員会を経て、4月より策定委員会が発足します。聖霊がこの教会をどのように導こうとしているのか、どのような教会にしているのか、委員だけでなく信徒全員で識別し、進めていこうと思っています。

④シノドス性シノダリティ「ともに歩む教会」の意味するところ

「すべての兄弟姉妹と『ともに歩む』教会の姿は、神から与えられた教会の美しい特質です。わたしたちは、神の愛の御手へと歩む旅人、

巡礼者とともに支え合い、ともに耳を傾け合い、毎日小さな一歩を社会に刻んでいきます」(カトリック中央協議会『シノドスハンドブック』2024年7月)

日本の教会は『シノドス流の教会』の内容を学ぶことが大事なポイントとなっています。いくつか抜粋してご紹介します。



▲ぜひ、ご一読ください

Ⅲ 最終文書に学ぶ②その1

①第一部 シノダリティの神髄——聖霊によって回心に呼ばれた者たち(13〜48)からシノドスの霊性

43 「聖霊は確かな導き手であり、わたしたちの第一の務めは、その聖霊の声を聞き取れるようになること。聖霊はあらゆる人を通して、あらゆる事象を通して、語っておられる」のです。

②第2部 舟で一緒に——  
かかわりの回心(49〜78)

から新たな関係性

51 出会った相手の必要と信仰に耳を傾けると、イエスからのことばとわざとがあふれ出て、彼らの人生は新たにされ、関係性を修復する道が開かれるのです。

黙想 イエスのかかわり方を読む：エリコの近くで盲人をいやす (ルカ18:35〜43) 目が見えるようになると同じ時に、心の目、信仰の目が開かれたことも暗示されています。イエスはどのように耳を傾け、盲人の人生を変えていったのでしょうか。

第二講話

Ⅲ 最終文書に学ぶ②その2

①第一部 シノダリティの神髄——聖霊によって回心に呼ばれた者たち(13〜48)から神の民である教会、一致の秘跡

15 すべてのキリスト者の生は、三位一体の神祕にその起源と目指す先を有しており、その三一の神祕がわたしたちのうちに信仰、希望、愛のダイナミズムを呼び起こすのです。

17 神の民は地上のすべての民とともに歩み、彼らの宗教や文化と対話し、そこにあふれるみことばの種を認め、神の国に向けて前進するのです。

シノダリティの意味と特徴

28 シノダリティとは「教会生活のさまざまなレベルで集会を持つこと、互いに耳を傾けること、対話、共同識別、キリストが聖霊のうちに生きておられることの表れである合意形成、分担された共同責任のもとでの意思決定で成るものです。

第3部(参考)

82 教会的識別とは「個人あるいは一集団の見解の承認ではなく、個別の意見の単純な集約で決着するものでもありません。

31 シノダリティは「神の民である教会の、固有の生活様式と運営スタイルを示しています。その交わりは『ともに歩むこと』、集会を開き、参集すること、福音化という自らの使命に全成員が積極的に参与することをもち、具体的に明示され、実現されます」

②第2部 舟で一緒に——  
かかわりの回心(49〜78)から新たな関係性

50 「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であること、皆が知るようになる」(ヨハネ13:35)「シノドス流の教会であるためには、真の意味でかかわりの回心が必要なのです。

51 福音書はイエスの、「聖地の道々で出会う人々に、耳を傾け続ける姿を示します」(「大陸のステージのための作業文書」II)。イエスは弟子であるわたしたちにも同じように振る舞うよう求め、聖霊の恵みによってそれが可能となる力を授けてください。

黙想 イエスのかかわり方を  
読む：徴税人ザアカイ  
(ルカ19:1〜10)

イエスから呼びかけて、耳を傾けています。ザアカイは立ち上がって(「立ち上がる」は復活と同じ意味)、これまでいたところから新しい人生を歩み始めました。イエスとザアカイの関わりは?

教会行事  
〜聖週間〜

今年度も大勢の信徒が主聖堂に集まり、喜びのうちに主のご復活をお祝いしました。\*はオンライン配信あり

十 受難の主日

枝の主日ミサ

3月28日(土)18時  
29日(日)7時、8時半、  
10時\*、18時(日本語)  
10時ミサ

主司式・高祖敏明神父

十 聖木曜日

主の晩餐の夕べのミサ

4月2日(木)19時\*  
主司式・佐久間勤神父

十 聖金曜日

主の受難の祭儀

4月3日(金)19時\*  
主司式・サトルニノ・オチョ  
ア神父

聖木曜日・聖金曜日はグ  
エン・ヴァン・テー神父が  
ベトナム共同体に向け、母  
国語で説教をされました。

十 聖土曜日

復活の聖なる徹夜祭

4月4日(土)19時\*  
主司式・柴田潔神父

十 復活の主日

4月5日(日)

7時、8時半、10時\*、18  
時(日本語)

主司式・高祖敏明神父

十 洗礼式

4月5日(日)15時半  
主司式・高祖敏明神父

洗礼式の説教でハビエル・  
ガラダ神父は福音書(ヨハ  
ネ20:1-9)をもとに話さ  
れました。「この2人は、心  
の目が開かれて信じるよう  
になったのです。人生にはい  
ろいろな経験があり、聖書を  
勉強してイエス・キリストの  
話を聴き、それに従いたいと  
思っています。ところが現実  
は厳しい。クリスチャンにな



▲聖土曜日 復活の聖なる徹夜祭

は簡単で、クリスチャンでい  
られるのは難しい。

一番目の問題は忙しさで  
す。イエス・キリストは非常  
に忙しかったにもかかわらず、  
祈ることに喜びを感じ  
て自分を見失わないために  
祈っておられました。愛や人  
間関係が機械的にならない  
ように、祈る必要性と祈る  
喜びを感じていきましょう。

2番目の難しさは、単調  
な繰り返しが生み出す慣れ  
で、ミサで同じことを繰り返  
しマンネリ化される危険性  
に陥り、意味が分からなくな  
り教会に來られなくなる。  
これに関して、17世紀オラン  
ダの哲学者スピノザの言葉  
『まともなことには意味の  
可能性があるが、その可能

性に努力を注がなければ、  
実現の面では意味がない』を  
引用すると、ミサやすべての  
ことには意味があるけれど  
も、その可能性については自  
ら努力を注いで実現してい  
かなければならない。神さま  
に祈って相談してわかるよ  
うにしましょう。

3番目の難しさは、『教会  
の雰囲気と教会の中の人間  
関係が私には合わない』と  
言って離れることです。20世  
紀スペインの哲学者オルテガ  
は『人間には強い人間と弱い  
人間がいて、強い人間は物事  
を作り弱い人間は人が作っ  
たことを利用する』と言いま  
した。雰囲気がよくないから  
離れるのは弱い人間です。中  
に残って自分が感じたより  
も、もっとよい雰囲気をつく  
るのが強い本当の信者です。

最後に4番目の難しさ。そ  
れは信仰の根本的な目的、  
何のために信者として生き  
ていく必要があるのか、  
わからなくなるのです。テレ  
ビを見ていて、ある人が『定  
年後になぜボランティア活  
動をしているのですか』と聞  
かれたところ『社会に恩を  
返そうと思っっているのです』  
と答えていました。

キリスト教の信仰の根本  
的な目的はこれと同じで、  
神さまからのたくさんのお  
恵みに感謝すること。そのた  
めにキリストのようにキリ  
ストとともに、より有意義に  
社会に恩を返し、人が助か  
るために人に仕える。この4  
つの難しさを覚悟した上で  
『主イエスよ、あなたについ  
ていきます。あるいは自分  
の弱さを認めて』主よ。連れ  
て行ってください』と言って  
洗礼を受けましょう。

聖土曜日の復活徹夜祭  
ミサの中でも洗礼式が行わ  
れ、5日の洗礼式後、17時よ  
りヨセフホールでお祝い会が  
開かれました。洗礼を受け  
られた65名の皆さま。おめで  
とうございます。アレルヤ!



▲5日の洗礼式 ハビエル・ガラダ神父

## 2026年度信徒代表挨拶

今年度、信徒代表を務めます。身に余るお役目ではございますが、皆さまとともに祈り、ともに歩んでまいりたいと存じます。至らぬ点多くございませうが、温かいご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年度の教会テーマは「ひとつになろうキリストのうちにとともに歩む教会へ」 Journeying Together as One Community to Jesus」です。私たちの教会はさまざまな人の集う大きな教会であり、日本語、英語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、ポーランド語の7つの言語でミサが捧げられる多国籍の共同体です。この豊かな多様性は大きな恵みであると同時に、理解と協力を必要とします。簡単なことではないですが、「ともに歩む教会の祈り」を支えとして祈りの中で聖霊の導きを求め、互いに耳を傾けあつて尊重し合う姿勢を深めていけたらと願っております。まずは、笑顔で挨拶を交わすことから歩みを始め、文化や言葉、世代の違いを超えて、ともに主の食卓を囲む私たちがキリストにおいて「ひとつになる」喜びを分かち合い、誰もが安心して集える教会となるようにいたします。

ルイス・カンガス神父様に洗礼を授けていただき、教会学校で学び、高校生会リーダーや昨年からは財務委員を務めております。ともに歩む教会に向けて、ご奉仕させていただきたいと思っております。

2018年に来日し、皆さまに支えられてきました。昨年はベトナム共同体若者グループ代表を務め、4月からは評議員として奉仕します。ベトナム共同体若者代表の経験を経て、皆さまと歩みたいと思っております。至らぬ点もありますが、頑張ります。

教会で出会う方々とのふれあいから笑顔が生まれ、主がそこにおられると感じます。この恵みに感謝し、皆さまとともに、教会のために評議員としての務めを果たしていきたいと思っております。

チエチリア聖歌隊でご奉仕しています。今回、信徒評議員として働く機会をいただいたことに感謝し、ともに歩む教会に向けた取り組みにお役にたてるようにお仕えしたいと思っております。

新しく教会にいられた方をはじめ、主のもとに集まった私たちがひとつになり、祈りと集いを大事にできる場となるようお手伝いしたいと願っております。どうぞよろしく願います。

聖堂係とトラ友の会で奉仕させていただいております。教会に集うさまざまな方たちをつなぐ、小さなか

け橋となれるように努めたいと思っております。どうぞよろしく願います。

南インドケララ州出身です。麹町教会に10年ぐらいつと通っています。今後も他言語グループと一緒に活躍しながらよりよく交流して、聖霊の導きを探って、一つのコミュニティをつくらう！

今般、信徒評議員に指名されました。以前にも一度、評議員を務めさせていただきました。これからの2年間、教会のために精一杯働かせていただきますので、どうぞよろしく願います。

## 教会活動連絡会便り

2024年度の「教会活動連絡会議(活連)」で始まった「教会活動連絡会の機能・運営の強化」は、2025年度の活連でも引き継がれ、各連絡会における対話や連携の充実を図り、連絡会から積極的に発言・提言を行うための取り組みがなされました。

### 教会活動連絡会議 2025年度の振り返り

#### 対話を重ねて

2025年度の活連では、連絡会に所属する各グループが互いの活動を知り、情報交換をすることに加え、対話を重ねて連携を築くための土台作りの一助となることを期待し、前年度に続いて、各連絡会からの報告の場が設定されました。

今年度の報告では、①各連絡会の概要や取り組み課題の紹介、他の連絡会と共有したい事項等についての自由発表、②高祖敏明主任司祭から呼び掛けのあった「聖年を意識した活動」(2036年小教区・麹町教会100周年を見据えての)パストラル・プラン策定への提案」への回答、という2

点を軸に、各連絡会で意見を募り対話をして、その内容が発表されました。

「希望の巡礼者」をテーマに交わりの機会が拡大した聖年の活動については、日頃から人を迎える姿勢を大切に行っている中でも、教会内外の方々との出会いや交流が増えて、新たな気づきが増えられた、活動内容を見直すきっかけになった、といった声が寄せられました。

ともにつくる100周年プラン  
パストラル・プラン(100周年プラン)づくりについては、各連絡会から日頃の活動での問題意識が共有され、提案がなされました。

具体的には、  
・来訪者の背景や状況に配慮した具体的な工夫の必要性、今後増えていく高齢者への配慮、そして、そ

れを支える担い手不足への対応策

・多文化・多言語の中で「ひとつになり」「ともに歩む」共同体として、翻訳活動の強化や多言語表示の充実、国際ミサのあり方見直し、交流拡大

・新受洗者の教会への定着のため、受洗年度毎のグループづくりや信徒養成講座の充実・強化

・議事録作成などにおけるDXの推進

・教会の建物や設備に関する課題として「収容人数」「高齢者への配慮」「憩いの場の提供」

・連絡会による教会行事の企画・運営  
・大人・子どもを問わず信仰教育の充実、信仰の継承

・もつと子どもたちが教会を好きになり、楽しく過ごせるようにする、またリーダーが子どもたちと力を合わせ、子どもたちが成長し、より居心地のよい教会にしていけるための方策

といった課題が示されました。

各連絡会は、それぞれの

活動領域に根ざした固有の視点から課題を示しました。一見異なるように見えながら、いずれも、誰もが安心して集い、支え合う共同体をつくるという、一年を通して唱えてきた「ともに歩む教会の祈り」に通じる思いが現れています。対話を重ねる中で、連絡会内だけではなく連絡会同士でも、互いの取り組みや問題意識についての有機的な響き合いが芽生えてきたことが感じられます。会議体としての活連の方向性が少しずつ形づくられ、動きとして現れ始めています。

教皇フランシスコによって始められたシノドスは、2028年10月の「教会総会」でひとつの頂点を迎えます。それに向けてこれからの1年間は各教区で具体的な取り組みをする期間となり、当教会では100周年プランづくりが進められます。主任司祭からは、100周年プランづくりにおいて礎となっている『シノドス流の教会—交わり、参加、宣教—シノドス最終文書』を信徒が学び直す場を設ける提案がなされました。

#### 連絡会充実への たゆまぬ取り組み

2025年度の活連では、各連絡会の運営方法についても見直しを図りました。つながりの強化を目指して、連絡会における参加グループへの連絡方法の確立と、その責任者選出を依頼し、各連絡会で整備が進められています。

2026年度は、各連絡会での規約の整備が目指されています。規約は、連絡会の目的を共有し、組織の構成、役員の役割・任期・選出方法、会議の構成、議事録等を整えることで、一体感を持ち、継続的・安定的に活動できる土台となります。規約は、今年度の教会テーマ「ひとつになろう」キリストのうちにとともに歩む教会へ Journeying Together as One Community to Jesus」を連絡会レベルで実現するための要となり、シノドス最終文書で示された「教会的識別」「意思決定プロセスの整備」「透明性、説明責任、評価」の求めに沿うものとなります。ともに祈り、語り合い、識別する歩みが続けられます。



### Family of St. Ignatius

#### ～スペイン語圏から～

#### ともに紡ぐ希望の絆

セントロ・ロヨラは、スペイン語圏コミュニティの信仰と秘跡の養成を支え続けています。一年半尽力されたシスター マルセラ・ロサスの帰天は大きな悲しみでしたが、活動は今、新たな力強さを見せています。現在の活動が維持されているのは、シスターたちの導きに加え、何よりもコミュニティの皆さんの献身的な協力があるからです。メンバー一人ひとりが手を取り合い、

一丸となって運営を支えることで、困難の中でも活動を継続することができています。

さらに、4月1日からはシスター カタリナ・パディージャが新責任者として着任されました。彼女は、歴代の責任者たちが築き上げてきた献身的な奉仕の精神を受け継ぎ、聖イグナチオ教会における宣教活動と遺志を継承していく決意です。

新しい体制のもと、ともに助け合う精神こそが、今のセンターを動かす原動力となっています。私たちはこれからも、希望を持ってともに歩み続けます。

(シスター イベッテ・サンチェス)

### ●宣教司牧評議会からのお知らせ● (4月9日開催)

- ・聖週間および復活祭には、多くの信徒の皆さまにご参加いただき、心より感謝いたします。典礼は、奉仕者の皆さま、特にリハーサルを重ねてくださった侍者の皆さまのご尽力により、滞りなく執り行われました。徹夜祭では7名、復活祭の洗礼式では58名の方が受洗されました。ヨセフホールでのお祝い会においては、ご復活の喜びとともに、新たに受洗された方々の喜びを皆で分かち合うことができました。
- ・教会テーマの各国語表記が承認され以下の通り、確定いたしました。  
 日 本 語：ひとつになろうキリストのうちに～ともに歩む教会へ～  
 英 語：Journeying Together as One Community to Jesus  
 スペイン語：Todos Unidos Peregrinos con Jesús Hacia el Padre  
 ベトナム語：Nên Một Trong Đức Ki-tô – Hướng đến Giáo Xứ Hiệp Hành  
 ポルトガル語：Vamos Caminhando Unidos em Direção a Jesus  
 ポーランド語：Bądźmy Jedno w Chrystusie Jako Kościół, który kroczy razem  
 インドネシア語：Berjalan Bersama, Bersatu Dalam Kristus
- ・6月よりポルトガル語ミサの時間が変更になり、毎月第1日曜日 13:30 からマリア聖堂で行います。

### ●セントロ・ロヨラから●

スペイン語圏の霊的導きやいろいろなお世話をしている「セントロ・ロヨラ」に、御聖体の宣教クララ修道会からシスター カタリナ・パディージャが着任されました。ご本人から「シスター カティと呼んでください」とのことです。よろしく願いいたします。

### ●音訳マジス●

2026年4月号より音訳版マジスがYouTube 公開されました。

音訳サービスは「必要な方々の目とされるように」という思いで、約40年にわたり目の不自由な方々に音声情報をお届けしてまいりました。

今回、多くの方々のご協力により、新たな形で音訳版マジスをお届けできるようになりました。今後は音声での情報がさらに広く、多くの皆さまのお役に立つことができればと願っています。



### ●幼児洗礼式●

7歳未満のお子様を対象とした幼児洗礼式を行います。事前の準備会があります。

詳細は教会事務室にお問い合わせください。

7月19日(日) 10月18日(日) 10時ミサにて

### ●財務報告●

- ・4月3日(聖金曜日)の「聖地のための献金」570,463円は、ローマ教皇庁に送られ、聖地の巡礼所や聖堂の維持管理などに使われます。
- ・「四旬節愛の献金」322,511円はカリタス・ジャパンを通して日本・海外の多くの人々のいのちを守るために使われます。

### 訃報(R.I.P) ドメニコ・ヴィタリ神父

4月5日(日)に帰天されました。88歳。通夜は4月9日(木)、葬儀は4月10日(金)、聖イグナチオ教会で執り行われました。助任司祭として30歳代に当教会で司牧され、教会学校や若い世代との交流を通して霊的に寄り添われました。2007年に第8代主任司祭として70歳代に再び赴任され、豊かな経験を活かし、大きな共同体を力強くまとめました。2009年には現聖堂献堂10周年を機に教会報を『MAGIS』と命名し、刷新へと導かれました。



#### 略歴

1937年11月18日 イタリア、ラヴェリーノに生まれる  
 1958年10月6日 イエズ会入会  
 1964年2月12日 来日  
 1970年3月14日 司祭叙階  
 1972年～1975年 麹町(聖イグナチオ)教会助任司祭  
 1976年～2005年 山口教会助任司祭・主任司祭代行・主任司祭  
 2005年～2007年 徳山教会、下松教会の担当  
 2007年～2012年 麹町(聖イグナチオ)教会主任司祭  
 2012年～2014年 津和野教会、益田教会主任司祭  
 2014年～2018年 横町教会主任司祭(広島)  
 2018年～2021年 日本二十六聖人記念館館長(長崎)  
 2021年～2022年 横町教会で司牧活動  
 2022年～2023年 防府教会主任司祭  
 2023年～2026年 山口教会助任司祭  
 2026年1月22日～ ロヨラハウス  
 2026年4月5日 帰天(ロヨラハウス)

【訂正】2026年4月号5ページ【マヌエル・シルゴ神父の霊操「祈りの旅」】の開始時期に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。  
 (誤) 開始時期7月  
 (正) 開始時期10月

## 5月の典礼と行事

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

1 (金) 労働者聖ヨセフの日 初金曜日	
3 (日) 復活節第5主日	日曜サロン・ミニオリエンテーション(受け皿) 11:00~12:30 ヨセフホール
10 (日) 復活節第6主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 教会案内ツアー ①10:30 ②11:00 受付 9:30~ 堅信準備会② 11:15 ヨセフホール <span style="float:right">世界広報の日</span>
13 (水)	傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 堅信準備会(平日②) 18:45 ヨセフホール
17 (日) 主の昇天の祭日	堅信準備会③ 11:15 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール
20 (水)	クリプタに安置され5月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 堅信準備会(平日③) 18:45 アルペホール 『社会問題とカトリック教会の考え 2026年度連続セミナー』 18:30 ヨセフホール 2026 環境と貧しい人々 「見よ、それはきわめてよかった」 今年のテーマとセミナーのやりかた-聞くこと、霊に導かれる対話- ボネット・ピセンテ神父
24 (日) 聖霊降臨の主日	堅信準備会④ 11:15 ヨセフホール 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール リビングロザリー 16:30
27 (水)	傾聴ルーム 11:15~15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00ミサ後 堅信準備会(平日④) 18:45 ヨセフホール
31 (日) 三位一体の主日	堅信式 10:00

マジス 6月号は6月7日(日)発行予定です。

主任司祭：高祖 敏明  
 助任司祭：ボニー・ジェームス  
 グエン・タン・ニャー  
 サトルニノ・オチョア  
 柴田 潔  
 協力司祭：ジェリー・クスマノ  
 ハビエル・ガラルダ  
 グエン・ヴァン・テー  
 関根 悦雄  
 マヌエル・シルゴ  
 作道 宗三  
 神学生：アントニオ・マリオ・ダ・  
 コスタ・ソアレス  
 シスター：フローラ・フロレセ  
 ジェスリン・ブエンディア  
 デイン・グエン・ゴック・  
 トウエン  
 カタリナ・パディジャ

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

### ミサの時間

【平日】主聖堂

7:00/12:00/18:00

【土、日曜日】主聖堂

土曜 18:00/19:30 (ベトナム語)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (英語) /13:30 (スペイン語) /

15:00 (ベトナム語)

【土曜日】マリア聖堂

17:30 (英語)

【月の第1日曜日】マリア聖堂

12:30 (ポルトガル語) /16:00 (ポーランド語)

【月の第2・4日曜日】マリア聖堂

16:30 (インドネシア語)

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

### カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102 - 0083

千代田区麹町 6 - 5 - 1

TEL 03 - 3263 - 4584

FAX 03 - 3263 - 4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)



音訳 Magis